

2018年度 世界展開力強化事業
中南米との大学間交流プログラム（短期留学）帰国報告書

国際食料情報学部・国際農業開発学科・2年 佐多 駿希

私は、2018年9月2日から約2週間、世界展開力強化事業の一環として南米ペルーへ短期留学しました。

私がペルーへ留学した理由は大きく分けて3つあります。まず1つ目はペルーの気候、食文化、生物などさまざまなことに関して関心があったからです。昔からペルーについて興味を持っていました。広大な山岳地帯、アマゾンの密林地帯などの多彩な自然に恵まれていて、さまざまな昆虫や哺乳類、鳥、爬虫類、日本にいても決して見るることができない生物が生息していて、またその土地にだいたい伝わる文化、農業、歴史、また現地の人々と関わってみたい、もっと知りたいという気持ちがありました。これらを体験するには手っ取り早い話現地に行き、直に自分の視覚、聴覚、味覚そして触覚で体験することが一番だと考えていました。2つ目は、日本の農業だけではなく海外の農業を学び、そこから日本の農業について考えてみたいと思ったからです。今年の春に石垣島でファームステイを経験することができました。日本が抱えている農業の問題が親身になって伝わってきました。日本の農業形態や日本での農業の大切さなどを知ることができ、本当に良かったと思います。しかし、日本の農業に対して不安を抱く面もありました。高齢化問題、後継者不足、TTPが与える影響、食料自給率の低下など悪い方向へと転がっていています。そこで、自分には何ができるのかを改めて知らなくてはいけないのだと思いました。そして、そのことから、日本の農業をみるだけではなく外国の農業もみてみたいと感じました。外国の農業はどのようにおこなっているのか、また、どのような問題を抱えているのか、どのような農業形態をしているのかなどとても興味が沸きました。そこで、ペルーの農業に目を付けました。ペルーには海岸地帯、山岳地帯、アマゾン地帯があり、それぞれで別のものが栽培されており、この短期の留学ですべての地帯を見ることができ、尚且つそこで生活している人の話を聞くことができるこれ以上の場はないと考えました。最後に3つ目は農家に対しての害虫や昆虫について知りたいと思ったからです。私は、現在熱帯作物保護学研究室に所属しており、昆虫に関する研究をしています。今は、ゴキブリが人体に与える影響のことや屋外のゴキブリの生活環などについてやっています。アマゾンにはたくさんの昆虫がおり、そこで生活している人々とどのようにかかわっているのかまた、現地の農業にどの程度害虫の被害を与えているのかを知りたかったからです。以上が留学をした理由です。

ペルーへはアメリカを経由して約27時間のフライトで、国内では海岸地帯の首都リマ、アンデス山脈である山岳地帯のカハマルカ、アマゾン地帯のプカルパの3地域を訪問しました。それぞれの地域にいろいろな文化と民族がおり、その土地にあった農業や生

活、環境の多様性についてとても驚愕しました。

首都のリマでは、東京農業大学の協定校であるラ・モリーナ国立農業大学の学生さんとの交流や大学の講義を聴講し、大学の研究室の見学などもしました。交流の内容としては、お互いの国を紹介するというものでラ・モリーナ国立農業大学での活動やペルーの気候、ペルーの伝統料理などいろいろと学べる機会があり、大変すばらしい経験でした。また、日本の紹介について英語で発表するというとても緊張し簡単な英語でも舌が絡まり発音できないときとかがあり、もう少し場数を踏まないといけないのだと実感しました。夜にラ・モリーナ国立農業大学の学生さんと見に行った夜景は今でも忘れられないくらい神秘的で心が休まった感じがしました。ラ・モリーナ国立農業大学の教授や学生さんなどのサポートがあり、本当にいい経験ができたのだと思いました。そして、最終日のリマの日に前々から行きたかった世界ポテトセンターに行くことができ良かったです。

山岳地帯のカハマルカでは、東京農業大学のOBOGであるエドガーとハスミンの家にホームステイしました。ホームステイ先では毎日ペルーの食事を体験することができ、毎日が毎日感動をおこすくらい美味しく、日本人の皆さんにぜひ振る舞わせてみたくなりました。カハマルカの街で週に1回開かれるローカルマーケットやエドガーさんが務める鉱山施設などを見学することができました。また、山岳地帯に住む農家さんの家を訪ね、カハマルカでの農業形態や家族構成などについて知ることができました。その時の帰り道で車が溝にはまって身動きができなくなり、みんなで試行錯誤し車を動かしたことは今ではいい思い出となっています。私にとって、カハマルカでの経験は今後の私生活に大きくかわるような出来事が多く、農業と工業との折り合いなどとても重要だということが改めて理解できたのではないかと思います。

アマゾン地帯のプカルパでは、東京農業大学のOBである鈴木孝之さんが経営されているカムカム協会で活動をしました。カムカムの収穫やピラルクの餌やりと捕獲、ピラルクの計測、サツマイモの種の保存など主に実習をする機会が多かったです。どれも大変だったのですが特に大変だったのがカムカムの収穫でした。約30分収穫しただけなのに体がダメになったようにばててしまい、そして収穫したカムカムも1キロあるかどうかかわらないくらい少なく、現地の人々もこのような苦勞をかけて収穫しているのだと感じました。そのことにより、自分が体で経験することによりフェアトレードとは何なのか、いまのフェアトレードで本当に正しいのかなど一層考えさせられることがありました。自分の体で経験することにより、今食べているもの、飲んでいるものが生産者にとってどれほどの苦勞をかけて生産されているのかがわかり、この経験は現地に行き、自分の体で体験することによってわかるのだと実感させられました。また、日本にはない珍しい作物が数多く栽培されており、驚きの連続でした。そして、見たこともない昆虫や動物、植物など本当に行ってみてよかったですと感じました。

以上が活動内容であり、ここに書ききれないくらいまだまだ色々なことを経験させていただきました。しかし、当初の目的であったものの5分の1程度しか達成することでなか

ったのではないかと思います。

当初の目的の1つ目であるペルーのことにしてもっと知りたいというのは、だいたい達成できたのではないかと考えています。ペルーの中でも違った伝統がいじまじり、どれもいいものだと感じました。しかし、ペルーには民族がたくさん住んでおり、それぞれの民族に価値観の違いがあり、もっと民族の人々について知りたいと思いました。また、歴史的背景から、日本文化では到底理解できない仕組みなどがあり、まだまだわからないことが多いと感じました。当初の目的の2つ目である日本の農業だけではなく海外の農業を学び、そこから日本の農業について考えたいということだったのでまだまだ勉強が必要で日本と海外の色々な場所を見て回りたいという思いが強くなりました。リマのラ・モリーナ国立農業大学では、水資源をどうやって節約して農業を行うのか考えさせられる部分がありました。リマを含むペルーの海岸地帯は、10%が砂漠ということで水を大切にする方法が様々に考えられていました。日本の農業の技術とペルーの農業の技術どちらの方が進んでいるのかではなく、日本の農業は、日本の気候にあわしての技術が発展し、生活にいかされています。しかし、ペルーの農業では日本の農業の技術も役に立つかもしれないが、ペルーでは、ペルーの気候にあわせた農業技術が必要だということがわかりました。私がペルーに行ってみて一番驚いたことは、リマに着いて空港から出た時です。車やバイクの多さ、人の多さ、家の多さ、日本では絶対に見られることができない光景が見られ、良い意味で期待を裏切られました。でも、後々考えてみると首都であるリマに人口が密集するということは、農村や工業地帯から人が流れ込んでいるということで、逆を返せば農村や工業地帯で生活できるぐらいの収入が確保できないということであり、若い人は農業離れしていくのだと思いました。このような問題は日本でも問題となっており、海外でもこのような問題が起きているということで類似点があるのだと改めて感じました。まだ、このことは自分なりの考えが多く含まれているので次は根拠をもとにペルーに訪れ現地で調査し、本や論文を読み、今後確証に変えていきたいと思いました。続いて当初の目的の3つ目である農家に対しての害虫や昆虫について知りたいということでは、今以上に昆虫について興味を持ち今後の研究目標につなげていきたいと思いました。今回プカルパでカムカム協会の会長である鈴木さんの農場の小屋に泊まる機会があり、そこにはたくさんの昆虫が住んでおり私が一番気になったのがゴキブリでした。現地の人にとってゴキブリやその他の昆虫についてどのように思って生活しているのかすごい興味を持つところでした。今回、そのことについて現地の人に質問できなかつたことが少し心残りです。

今回の短期留学を経て自分に何が必要なのか、何が足りないのか分かりました。一番自分に足りないと思ったのは、コミュニケーション不足だと感じました。ペルーの公用語であるスペイン語が喋れないということもあるのですが、一番は相手が今何を求めて話しているのか、また相手の気持ちになって話をするなどそういう部分が欠けていたのではないかと感じました。今後の目標として色々な人とコミュニケーションをし、コミュニケーション不足を解消していきたいです。また、ペルーでまだ達成できなかったことや残り残したことが

多いのでぜひもう一度行きたいです。そのためにもスペイン語を身に着け、日本の農業と海外の農業について勉強していきたいです。将来、海外で働きたいと思っており、今回の短期留学を経てビジョンがはっきりしたと思います。これからの大学生活で将来のためにやり残したことがないように色々なことに挑戦していきたいです。

